

土木学会四国支部「土木紀行」No.85(高知県)

「魚梁瀬ダム」



写真1 魚梁瀬ダム

魚梁瀬ダムは高知県安芸郡北川村にあり、高知市からは国道55号を室戸方面に進み、安田町から県道12号安田東洋線を馬路村方面へ進み、さらに馬路村からでも車で40分程度要した。二級河川である奈半利川の本流最上流部に建設されているが、貯水池の大部分は安芸郡馬路村に属している。型式はロックフィルダムで、堤高115m、堤頂長202m、貯水池面積117.1km²、総貯水量1億462万5千m³の同形式としては西日本最大である。高知県は日本屈指の多雨地帯であり、特に県東部の奈半利川流域では台風の影響により、大雨が降りやすい地域のため奈半利川は水量が豊富である。また、流域には急な山地が多くあり、急流で水量が豊富な河川は、水力発電を行うだけの落差と水量が確保できるため適地として開発されたと記されている。



写真2 魚梁瀬発電所

1952年に魚梁瀬ダムの計画が発表されると、集落の大部分が水没する魚梁瀬地区の住民は開発案に強硬に反対したそうで、それはコミュニティの崩壊に加え、ダム建設により魚梁瀬森林鉄道の軌道がいたるところで水没することにより木材運搬が不可能になり、最大の生業である林業が崩壊する



写真3 魚梁瀬杉



写真4 ユズ畑

ことにあったようである。このため住民だけでなく魚梁瀬営林署等ダム建設に反対の姿勢をとった魚梁瀬地区の住民は、林業とコミュニティの維持を求める立場上、ごく小規模のダムを建設することから水没物件が最小限に留まる住友共同電力の旧案を推したが、下流域の北川村と奈半利町、田野町の住民は、奈半利川水系ではない野根川に水を導水されることで農業用水の確保に影響が出ることを恐れ、電源開発の案を推した。この利害の違いにより住民は二つに分かれたそうです。その後は、ダム問題や補償交渉に長期間費やした結果、ダム上流部に代替地を建設して集落ごと集団移転をさせる案が示されました。これに応じ、ダム魚梁瀬丸山地区に代替地を建設し、さらに魚梁瀬森林鉄道の代わりに奈半利町へ通じる代替道路の建設工事を実施して誠意を見せたそうで、こうした電源開発の姿勢に水没住民も態度を軟化させ代替地への移転に続々応じ、最終的に全体の八割に当たる人が代替地へと移転し、残りは高知市など県内に散っていったそうです。ダムの真下に建設された魚梁瀬発電所によって認可出力36,000キロワットの発電が行われています。魚梁瀬地区は、かつて源平合戦に敗れた平家の落人が住み着いて以来800年続いた歴史に幕を閉じ、水の底に消えていきました。

観光として魚梁瀬ダムや魚梁瀬貯水池も整備され、湖畔には魚梁瀬丸山公園があり、春には多くのソメイヨシノが咲き誇り花見のスポットとなります。毎年4月上旬には「魚梁瀬桜まつり」が催されています。夏にはオートキャンプ場も併設されていることから多くの観光客が訪れます。また、スギとユズが特産品とされ、スギは日本三大美林にあげられるほどで、ユズに関しては柚子酢や加工食品を生産しています。森林公園には魚梁瀬森林鉄道で実際に運転された蒸気機関車が展示されています。高知にお越しの際は、少し遠いですがぜひ足を進めて魚梁瀬の方にも出向いて下さい。

参考文献 1) 四国堰堤ダム 88 箇所巡<http://dam88.info/index.cgi?Sshop=23>

2) ようこそ馬路村<http://www.umajimura.jp/index.html>

3) 魚梁瀬森林鉄道遺産<http://rintetu.jp/history.php>

(高知高専専攻科 建設工学専攻 1年 土居翔太)

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>